

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

由布市長 相馬 尊重

市町村名 (市町村コード)	大分県由布市 (442135)	
地域名 (地域内農業集落名)	龍原中央 (龍原)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月20日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。
注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

現在取組を行っているものは鳥獣被害防止対策、減農薬・減肥料栽培、農地の保全・管理である。地域内で主に栽培している作物は水稲である。地域が抱える課題として農業者の高齢化、農業にかかる経費の増加、農業収入の低下、新たな担い手不足が挙げられる。これらの課題の原因や理由として主に挙げられるのは、販売価格の低下、資材の高騰である。
主な作物:水稲

(2) 地域における農業の将来の在り方

地域の中心となる経営体に積極的に集積すること、減農薬、化学肥料削減を行い環境保全型農業に取り組むことを目指す。また地域の所得向上に向け、一部は米から野菜への転換、ドローンを活用した農薬散布などの新しい技術の導入に取り組むと考えている。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	6.5 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	6.5 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を農業上の利用が行われる区域とする。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
・耕作の継続が困難な農地については中山間組織で協力し、耕作の継承もしくは農地の維持管理を図る。 ・中山間組織を中心とした担い手に集積・集約化を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
原則として、農地バンクを通じての貸付を行うよう検討する。
(3) 基盤整備事業への取組方針
基盤整備に取り組む予定なし。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
農薬散布についてはゆふ農業サポートに委託している。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
特になし。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input checked="" type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④輸出	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨その他	
【選択した上記の取組方針】				
①鉄柵及び電気柵の設置、点検、補修などを行っていく。				
②一部減農薬、減肥料栽培を行っている。				
⑦引き続き中山間事業を活用し、保全・管理を行っていく。				